

第4回大船渡市総合計画審議会議事録

日 時	令和2年12月21日(月) 午後1時25分～3時20分
場 所	シーパル大船渡 2階大会議室
出席者	<p>〔委員〕吉野英岐、米谷春夫、齊藤俊明、田村福子、金野律夫、佐々木好子、門田崇、臂徹、江刺由紀子、刈谷忠、今野良子、白木澤京子、中村純代、清水恵子、畠山博史 計16名</p> <p>〔市職員〕副市長 志田努、教育長 小松伸也、災害復興局長 佐々木義久、企画政策部長 武田英和、総務部長 田中聖一、協働まちづくり部長 新沼徹、生活福祉部長 金野高之、商工港湾部長 近江学、観光推進室長 千葉讓、農林水産部長 鈴木満広、都市整備部長 阿部博基、水道事業所長 大浦公友、議会事務局長 鎌田征喜、教育次長 遠藤和枝、消防長 大久保守正</p> <p>〔事務局〕企画調整課長 伊藤喜久雄、課長補佐 山口浩雅、課長補佐 迎山光、係長 田村勇貴、主事補 大和田瞬、パシフィックコンサルタンツ(株)課長 三好健太郎</p>
会 議 内 容	
<p>午後1時25分、武田企画政策部長の進行により開会。</p> <p>武田企画政策部長が、会議の成立について、委員19名中16名の出席により会議が成立していることを報告した。</p> <p>続いて、米谷会長からあいさつ。要旨は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の審議会では、総合計画2021基本構想素案と施策の体系骨子素案についての説明を受け、検討いただいたところであるが、本日は基本構想(案)や、前期基本計画(案)について、議論を深めてまいりたい。 ・ 向こう10年間を展望する基本構想と、5年間を計画期間とする前期基本計画が実現性の高いものとなり、加速度的に変化する環境に対応しながら、復興後の大船渡市におけるまちづくりの指針となるよう、皆さんからお知恵をいただきたい。 <p>その後、総合計画審議会条例の規定により会長が議長となり、米谷会長が以降の進行を行った。</p> <p>○議事(1) 大船渡市総合計画2021基本構想(案)について</p> <p>事務局(迎山企画調整課長補佐)から、資料1、2に基づき説明。 質疑等はなし。</p> <p>○議事(2) 大船渡市総合計画2021前期基本計画(案)について</p> <p>事務局(迎山企画調整課長補佐)から、資料3、4、5に基づき説明。 以下、質疑応答。</p> <p>白木澤委員) 資料4の13頁の③男女共同参画の促進について、「女性の活躍を促進する取組を推進します」とのことだが、大船渡市では男女共同参画推進条例ができて10数年経過しているが、いまだにこういう言葉を使わなければ、女性が活躍できないのかという印象を受ける。女性という言い回しにせず、「お互いに尊重し合いながら」としたほうが前進しているように聞こえると思うがどうか。</p> <p>武田企画政策部長) 市民意向調査では、性別による役割分担意識などは横ばいで、改善・進捗が見られない。様々な審議会等に女性を登用して意識を変えていくことが必要。「女性」という言葉以外の言葉を使ったほうが良いということであるが、男女共同参画推進条例やこれまでの活動もあり、難しいところもあるが参考にしたい。</p> <p>白木澤委員) 14頁の「市が設置している各種審議会などの委員の女性登用率…」というところで、</p>	

まず、多様な人材の発掘と育成がないと女性の活躍も増えないのではないかと。文脈的には「しながら」がついでのように見えてしまう部分があるので、「政策決定の場への女性の参画機会の拡充を図るため、市が設置している各種審議会などの委員の女性登用率の向上を図り、多様な人材の発掘と育成を推進します」としていくことが望ましいと思うがいかがか。

武田企画政策部長) 表現について、持ち帰って検討したい。

白木澤委員) 16 頁、基本事業の②の乳幼児健診において、「未受診児の現状把握に努め…」とあるが、どのように状況把握をしているのか。未受診の理由は何か。

金野生活福祉部長) 未受診はそれほど多くなくて、未受診の理由としては家庭の事情があると推察している。未受診児への対応については、個別に連絡を取ってきめ細かな対応に努めている。

白木澤委員) 22 頁、施策 10「学校教育の充実」について、不登校児童への居場所支援が載っていないが現状はどうなっているか。

遠藤教育次長) 不登校児童に対しては、教育相談室を設置して対応するなどしており、丁寧な対応に努めている。

白木澤委員) 不登校児について、中学校から高校への引継ぎが不十分に感じる。ケースバイケースであるが、高校進学後もどういう生活を送れているかを調査して、その子が不登校だった時期の対応がどうであったかをレビューしていてもいいのではないかと。

小松教育長) 中高連携について、校長は学期に 1 回、中学校卒業時の引継ぎは行っているし、高校入学後のケアも中 3 担任と高 1 担任とで連絡を取り合って、情報交換を行っている。生徒指導では高校の担当まで集めて学期に 1 回、情報交換会を行っている。キャリアパスポート事業として、児童生徒の個票を小学校から高校まで引き継いでいる。全国一律で行っているもの。

刈谷委員) 16 頁、「③子育て支援環境の充実」の子供相談の部分。最下段に「子どもと家庭の相談体制の構築」とあるが、気になるのは「構築」という言葉。前年度速報値で約 19.4 万人の虐待に関する児童相談所通報がある。気仙地区を管轄する一関児童相談所の相談件数も増えており、大船渡市は 64 件。子ども子育て会議で確認したところ 150 人強で、30 人に一人がそういう対象になっている。4 月から子供への体罰が禁止になっている。状況が厳しくなっている中、相談支援体制の「構築」となると、これまでも体制の構築はしていて、これからはより専門的な取組が求められることを鑑みると「強化」などの言い回しがいいのではないかと。

21 頁、「①障がい者(児)支援の充実」について、「相談支援体制の整備に努めます」というのは児童発達支援センターも含めての意味かと思うが、児童発達支援センターと子ども家庭総合支援拠点は 2020 年度を目標に市町村単位で整備ということで進めていた経緯がある。16 頁では「取組を進めます」、児童発達支援センターのほうは「整備に努めます」ということで、言い回しが違うのはどういうことか聞きたい。

障害児について、学校の現場で発達障害、知的障害はかなり多いと思うが、平均でどの程度いるのか教えてもらいたい。

金野生活福祉部長) 意識した書き分けではないが、子どもたちの虐待は件数も増えてきており、クローズアップされているので、それを踏まえた書きぶりにしている。表現の仕方は持ち帰って検討する。

小松教育長) 通常学級における発達障がい児は全国的には約 6%とされているが、当市では 3%程度かと思う。県内で見ると、特に都市部で増えていて、その対応を協議しているところ。

刈谷委員) 6%は一般的な数値で、埼玉では 10%だったという話もあって確認させてもらった。

中村委員) 将来都市像について、すごくいいと思った。特に「活気あふれる三陸のにぎわい拠点」という言葉を実現する基本計画であるといいと思った。

基本構想の 17 頁、デジタル化の推進ということで、前回も申し上げさせていただいたが、今後のいろいろなにぎわいづくり、活性化を語る時に切り離せないものであると考える。Society5.0

も含めて単純に取り入れるということではなく、普遍的な付加価値を生み出すために提唱されていることで、市の政策にも生かされるといい。

市の施策にも随所にICTに言及があるが、具体的にどういう取り組みをするのかつかみにくい。日進月歩の技術に対して、わかりやすい目標を示しているといい。例えば、市内wi-fi無料、など、そういうことが今後の計画に入っているとすごくいい。

現状の状況と今後の取組で動いていることがあればうかがいたい。

武田企画政策部長) 指摘のとおり、持続可能なまちづくりのためには生産性の向上が必要であり、そのための手段がICTだと思う。大船渡市ではマイナンバーカード取得率も低いことが課題でもある。それも含めて市のIT化、ICT化を含めて効率的な事務を進めたい。前期基本計画のいたるところにデジタル化、ICTが出てくる。庁内でもタブレット端末を活用できないかなどを検討しているところ。

中村委員) 「三陸のにぎわい拠点」ということについて、人に往来だけでなく、世界中の人とつながるといふ観点でも、ICTを身近に感じることができるようになるといいと思っている。

米谷会長) 大船渡市では、課長以上がタブレット端末を持つことになるのか。

田中総務部長) 部課長以上がタブレット端末を持って活用し、その後、担当にも活用を広げていく。議員もタブレット端末を活用する方向。

コンビニで様々な支払いをできるようになり、住民票も取れるようになっている。しかしその利用にはマイナンバーカードの取得が必要。その環境も進めながら時代に対応していきたい。

齊藤委員) 6頁、施策「3 賑わいあふれる商業・観光の推進」の課題の1つ目、商業地の魅力振興。大船渡の商業地も最初は「新しいから」で人が来てくれたが、今後はそれだけでは集客できない。平成28年9月29日に大船渡市長に「気仙丸を陸にあげて展示していただきたい、同じスペースに多目的広場、ミュージアム、野外劇場を設置して欲しい」と要望した。3年半かかったが、決断してもらってありがたい。まだ場所が確定しておらず、野外劇場もはっきりしていないが、これらをまとめて整備して欲しい。そうすると魅力が出てくると思う。大船渡駅周辺地区には空き地もあるので、ぜひ中心街に作っていただきたい。そうでないと中心街の賑わいが難しい。中心街の賑わいがないと大船渡市自体が衰退して見える。

課題の2つ目、通過型観光から滞在型観光への転換も古くて新しいテーマかと思うが、震災後、三陸大船渡夏まつりが復活した。かがり火まつりには平成8年の計画時から参画していた。東北最大の海のかがり火としてやってきたが、1日限りのイベントと2日間の開催では相当経済効果が違う。2日あると宿泊していく方もいるだろう。そういうことでかがり火まつりが再開するのか、中止になるのかお聞きしたい。

千葉観光推進室長) 気仙丸の設置場所ということであったが、キャッセン大船渡と相談しており、まだ発表できる段階ではないが、大船渡駅周辺地区内に検討している。野外劇場については気仙丸の設置と合わせて要望いただいたが、今後の課題と捉えており、検討したい。

かがり火まつりは、まだ関係機関との検討に入れていない。現下の状況でどうするか、関係機関と一生懸命調整しなくてはならないし、イベントが1日だけでは集客効果が小さいのも確かだと思う。滞在型観光は観光消費額が圧倒的に多いという現実があり、それを観光の最大目標にすべきだという認識を持っている。新たな観光ビジョンの策定に向けて議論しているところ。One More Stayにつなげるため、近隣市町等と情報共有・連携して1泊が2泊になるような工夫も必要と考えている

米谷会長) 個人的には、現状では7街区が適切かと思う。野外劇場は、陸前高田市でワタミが2億円かけてやろうとしているが、ああいうものがあるといいと思っている。

商工会議所で調べたところによると、事業者のうち、約16%が廃業を検討している。全国では10%程度。もったいない。事業継承する支援策はないものだろうかと検討を行っているところ。

田村委員) キャッセンの駐車場の海側は使いみちがあるということか。そうであれば早期に空地を解消してもらえると、にぎわいにつながると思う。空き地対策をなるべく早く解決してもらいたい。

米谷会長) 集客の核がカモメテラス以外にないのも問題かと思う。

門田委員) 全体的には前期基本計画に異論はないが、これに沿って具体的にどういうことを実現するのかと思う。どこの自治体も同じ悩みを持っていると思うが、これからは各自治体の本気度が試される重要な10年になる。実現できる自治体とそうでない自治体の差がついていくと思う。例えば人口減という問題も出ていて、取組が必要だということも共通した考えだが、その対策もある程度は出ているが、今までの取組とあまり変わらないと考える。それだと、これからもあまり変わらないのではないかという気にもなってくるので、これは計画としてよしとして、それに対してどういう知恵を出して実現していくのかというのが、これからの肝心な点になるのではないかと考えている。

商店街としても商店街の活性化、空き店舗の解消ということが書かれているが、どういう具体的な施策をやっていくのか、もっと踏み込まないと変化しづらいと思う。住民と関係者等がもっと踏み込んで相談したり、意見を述べ合ったりして実現していかないとモノになっていかないのではないと思う。携わっているものはいろいろ気付きはあるが、その部分を行政関係者や組織の人が感じてくれているかというところズレがあるように思う。待ちの姿勢でなくて自らアクションを起こして、実現にお互い頑張っていこうという姿勢が必要になる。そういう部分があって初めて物事は実現していくのではないか。ローカルなところは人と人の信頼関係、コミュニケーションが大事だと思うので、ぜひ計画に沿って、共助ということで、それを大事にしながらやっていただければありがたいと思う。

今野委員) 資料5の目標値について、それぞれの施策の目標値はどのような基準で設定しているのか。例えば施策「1 地域活力を担う水産業の振興」に関して、直近の実績値から目標値が下がっているのか。施策「9 地域福祉の充実」の「②生きがいを持って生活している高齢者」の割合の目標値31%も低いと思うが、根拠は何か。

武田企画政策部長) 生産額の成果指標については、増えるのが望ましいが、人口減もあり現状維持が望ましいという認識もあって設定している項目もある。

また、市民意識調査の結果を用いて、これくらいの数値までもっていきたいと、頑張れる数値は上向きにしている。

鈴木農林水産部長) 目標値については、実績値から見ると、延びるものがあれば上向きにするし、減らしたくないという観点で設定している数値もある。

水産物の数値も水揚げ額などをもとにはじき出している数値である。漁業者が減少しつつある中で養殖施設が大きく増えるということは考えにくい。H29の実績は大きく増えているが、貝毒もなく魚市場の水揚げも最も多かった年、それが震災後、最も大きい額になっているのでそれを目標に50億円としている。

今野委員) 無理な設定をする必要は無いので根拠が明らかであればいい。文言の書き方もそうだが「努力します」というものが数字に出ているのではないかと思う。現状維持も大事なので、行動にうつせる数字になればいいと思う。

佐々木(陽)委員) 資料4の7頁、施策「3 賑わいあふれる商業・観光の推進」について、ホテル組合では、GOTO トラベルキャンペーン期間に飲食店での食事がセットになるプランをインターネット商品として販売していて、売れ行きがいい。その他、お土産クーポンも反応がいい。

「③観光宣伝の充実」のうち、観光情報を発信するホームページやSNSなどもそうだが、インターネットに載る市内の情報を宿泊業者として発信の強化を図っていききたいし、高速道の開通により仙台からのバスの来訪を見込めるので、バスの駐車など市としても支援していけるといいの

ではないか。お土産のタイアップも高齢の方ではなかなか手間を取れないところも結構多い。ホテル業にもどんどん入って行って魅力発信を行ってもらえるといいと思う。

千葉観光推進室長) コロナ禍以降、市では宿泊観光回復事業を行っており、市内 10 事業所の参加を得ている。コロナには人によって思いが違って、家族経営のところは「我々が我慢した方が」という思いを持っている方もいらっしゃる。

ブランディング研究会という新しい取組では、旅館だけが儲かるだけでなく、周辺の商店も巻き込んでいく取組ということで、宿泊料に対する割引で、いいところに気が付いたと思う。今回の気づきをコロナ後の取組にも生かしていけると思う。

米谷会長) 資料 4 の 37 頁、公共交通の問題。「地域の実状に応じた公共交通」と謳われていて、デマンド交通の実装に向けた取組を位置付けているが、市内の高齢者にも運転免許を返納して買い物足にも困る方が増えている。タクシーチケットもせいぜい半額補助。デマンド交通は予約制なので面倒くさく感じる高齢者も多い。市内の交通に関して、高齢者を考えた交通を考える必要がある。バスにしても綾里から大船渡までも 1 日 3 便程度。例えばスクールバスと兼ねた高齢者向けバスで生活利便施設を回る交通をできないかと思うがどうか。

近江商工港湾部長) 確かにタクシーチケットやデマンド交通は有料。これらは社会実験として進めているものであり、様々な意見をいただきながら検討しているが、必要であれば実証実験の際の検討の一案として考えていきたい。

吉野委員) 資料 5、施策「1 地域活力を担う水産業の振興」の目標値について、他の施策はやや上向きか、現状維持としているが、漁業は 5,000 と区切りのいい数値にしているのでも「減らすのか?」という印象を受ける。直近の実績値の 5,032 という表記でもいいのではないかと。所得を増やすという目標と整合するのかが心配。

施策「18 市民生活に身近な安全の確保」では、人身事故の目標も 40 件起こっていいというわけではないので、表現としては「以下」を入れておけば 40 件起こることを許容するものではないことを示せばいいと思う。

資料 2 と資料 4 の表紙について、基本構想は 10 年間であること、前期基本計画は 5 年間であることがわかりやすいよう明示したほうがいいと思う。

資料 2 の 31 頁について、施策の大綱は 7 つであるが SDG s 関連も入っているので 8 節になっている。SDG s 関連が目玉の一つではあるが「施策の大綱は 7 つ」ということを明確にすることが必要ではないか。基本構想の「はじめに」のところで「SDG s の対応に考慮した計画にします」と宣言しておけばいいかと思った。

資料 4 の前期基本計画では、大綱 1 から入っていくが、その前に案内文があって「ここでは 7 つ」、「SDG s の関係を示している」のような話を入れていたほうがいい。新しい取組なので市民に分かってもらえる工夫があるといいと思う。

成果指標は市民意識調査によるものが多く、半分程度ある。市民意識調査はこれまでの結果は出ているが、これからも毎年、市民意識調査を行うという前提がないと、評価をするにあたり、根拠はどこにあるのかということになる。毎年、市民意識調査をやっている市は珍しいので、少なくとも「5 年間は市民意識調査をやって進捗管理を行います」と書いておかないと、計画の中にも評価の手法を位置づけておいたほうが良いかと思う。

鈴木農林水産部長) 資料 5、施策「1 地域活力を担う水産業の振興」の目標値について、H29 は目標を上回っている、一気に上がった年。担当部署としてはこういう設定をしたが、H29 の 5,023 を目標値にしたほうがわかりやすいかとも思うので再検討する。

武田企画政策部長) 資料 5、施策「18 市民生活に身近な安全の確保」の目標値のうち、住宅火災発生件数、人身事故件数、犯罪件数は指摘のとおり検討したい。

SDG s に関して、その構成を検討したい。また、前期基本計画の SDG s のアイコンについ

ても表現を整理する。

市民意識調査の記載も指摘のとおりとしたい。

江刺委員) SDG sについて考えていたが、SDG sとはなんぞや、これはどういうゴールを目指しているのかということについて、参考資料でもいいので、記載したほうが良いと思う。

内容は、ここまでよく広くていねいに記載したと思うが、読んだ方がわかりやすいように図を取り入れるというのがあるかと思う。見ただけでイメージとしてよくわかるようになる。基本構想の39頁にあるように、前期基本計画も図を取り入れてもらいたい。

武田企画政策部長) SDG sもわかりやすく取りまとめたい。

米谷会長) 以前、東海新報に陸前高田市の子供の貧困率が14%と全国平均を大きく上回っていた。年収122万円未満の家庭がそれほどあることに驚いたが、大船渡ではどうなのか教えてもらいたい。「誰一人取り残さない」のがSDG sの理念なので貧困率を算出してもらいたい。

前期基本計画が大船渡という文字が無くとも大船渡のものであることがわかるように独自性があるかと思う。例えば、みなとオアシスの認定を受けているが、釜石も久慈も認定されている。ほとんどどこの港もみなとオアシスの認定を受けている、しかし大船渡のみなとオアシスの特性は何か明らかにする必要がある。

地元の高校を出てそのまま就職するのもいいが、別の場所で学んでくることも大事。数年経ってUターンするための施策も必要ではないか。

保育園も保育料が無料となるのは子ども3人以上で、実際には3人以上子供がいる家庭は稀。1人目から無料にできないものか。

千葉観光推進室長) みなとオアシスは全国で150近くあって、大船渡ならではの特徴は港と商店街が近いなどが挙げられる。商店街の活性化という言い方があるが、大海原を砂漠と見立ててそれらの人が潤うオアシスとして、クルーズ客船が寄港することをイメージしている。港がまちに近いこと、公園ができて「大船渡港に入るのだな」ということがわかりやすく、そういうことをPRしたい。

金野生活福祉部長) 保育料については、国の施策を反映しているところ。副食費が無料にならないところは市で独自補助を行っている。第3子以上の無料化については調べておく。

江刺委員) 将来都市像が修正前に比べて複雑化した。どれ一つ落とすことができない言葉であるが「やすらぎ」と「活気あふれる」は相反するものに見えるし、活気あふれるは「三陸」にかかるのか、「賑わい拠点」にかかるのかもわかりにくい。違う性質のものを一緒にするのは文章としても難しいのではないか。「ともに創る やすらぎのまち 三陸の活気あふれる拠点」などのようにするのも一つではないか。ここはもっと考えていただきたい。

武田企画政策部長) 将来都市像について、前回の審議会において、「外の人が見た時に大船渡のイメージがわかりやすいように」ということもあり、三陸という言葉を入れた。活気あふれるがどちらにかかるのかということもあり、今の指摘の点については持ち帰って検討してみるが、将来都市像をさらに変更するとなるとなかなか難しい部分がある。

○議事(3) その他

事務局) 次回、第5回の審議会は1/15(金)午前10時から、市役所において開催予定。本日いただいた御提言や、現在実施しているパブリックコメントでの御意見を踏まえ、修正した基本構想案、前期基本計画案、答申書案について御審議いただく予定。あらためて案内する。

委員の皆さんに「提言票」用紙を配布している。必ず提出していただくというのではなく、本日の審議会で発言できかねた場合等には、ファックス、Eメール、メモ書きなどどんな形でも構わないので、12/23(水)までに事務局あて御意見をお寄せいただきたい。

金野生活福祉部長) 先ほどの保育料無償化の件、0~2歳の児童は住民税非課税世帯は無償という

扱いになっている。これは第2子までとなっているが、第3子以降も大船渡市独自策として支援している。これをさらに拡充するとなると、財源との兼ね合いになる。

米谷会長) 次回が最後の審議会になる。皆さん言い残しがないように留意いただきたい。

午後3時20分閉会。